

## 不規則外力による多自由度系の応答について

京都大学工学部 正員 山田善一  
京都大学大学院 常生員 竹宮宏和

## §1. まえがき

多自由度系構造物が地震波のような不規則外力を受けた際、その応答を確率論的に整理しようとする方法は他にも試みられており、本論文においても receptance の概念を導入し、外力が非定常入力波の基に線形多自由度系の応答を取扱うものである。

## §2 解析法

系の receptance；多自由度系の線形強制振動に関する運動方程式は

$$[M]\ddot{\{x\}} + [C]\dot{\{x\}} + [K]\{x\} = -[M]\ddot{\{z_0\}} \quad (1)$$

ここで、 $\{x\} = \{\bar{x}\} e^{i\omega t}$ ,  $-[M]\ddot{\{z_0\}} = \{\bar{z}_0\} e^{i\omega t}$  とおくと上式から

$$(-[M]\omega^2 + i[C]\omega + [K])\{\bar{x}\} = \{\bar{z}_0\}$$

この連立方程式より、多自由度の receptance は一般に

$$H_{rs} = (-1)^{r+s} a_{rs} / A \quad (2)$$

但し、A は  $\{\bar{z}_0\}$  の係数による行列式、det. で、 $a_{rs}$  は  $\{z_0\}$  の余因子の det. を意味する。また系の固有振動数は  $\Delta = 0$  のり求められる。

地震動；地震記録の観察より、地動加速度は矩形波形で表せ得る。

$$\dot{f}(t) = f(t)g(t) \quad (3)$$

上式で  $f(t)$  は、 $g(\omega) = 0$  ( $\omega$  は deterministic な周波数)、入力波が非定常ならしあらざるものとする。  
 $f(t) = (e^{-\alpha t} - e^{-\beta t})/H(t)$

$g(t)$  は、平均値 0 の Gauss 分布を有する定常 random 関数と仮定する。従って covariance

$$\begin{aligned} E\{f(t)f(s)\} &= \frac{i}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \bar{z}(\omega) e^{i\omega(t-s)} d\omega \\ E\{\dot{f}(t)\dot{f}(s)\} &= -E\{f(t)f(s)\} = \frac{i}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \bar{z}(\omega) e^{i\omega(t-s)} d\omega \\ E\{g(t)g(s)\} &= \frac{i}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} \bar{z}(\omega) e^{i\omega(t-s)} d\omega \end{aligned} \quad (4)$$

すなはち、入力波と地盤特性を介入させると、 $\dot{f}(t)$  は次の微分方程式を有する系、応答を考える。すなはち。

$$\ddot{g}(t) + 2\mu_n \dot{g}(t) + (\omega_n^2 + \mu_n^2)g(t) = m(t)$$

$$E\{m(t)m(s)\} = D S(t-s)$$

ここで  $D$  は white noise の値を意味する。従って、地盤の固有振動数は

$$H(\omega) = (\omega_n^2 + \mu_n^2 - \omega^2 - i2\mu_n\omega) / (\omega_n^2 + \mu_n^2 - \omega^2 + i2\mu_n\omega)$$

系の応答；構造物の変位応答は、線形性の仮定から

$$y_{ji}(t) = \sum_{i=1}^n y_{ji}(t) \quad (5)$$

$y_{ji}(t)$  は、 $j$  質量への外力が作用した際の質量の変位応答を示すもので、重み係数  $y_{ji}(t)$  によって次式で定義される。  
 $y_{ji}(t) = \int_{-\infty}^{\infty} (2\pi)^{-1} X_i(2\pi f) Y_{ji}(f) df$

$\Sigma S_i$  Fourier 变换 :=  $\Sigma Y_i$

$$Y_{ji}(w) = H_{ji}(w) X_i(w) \quad (5)$$

$\Sigma S_i$  云々  $H_{ji}(w)$  は、前回述べた  $S_i$  receptance を意味することになる。よって、全外力による質実の応答を表す

$$Y_j(w) = \sum_{i=1}^N Y_{ji}(w) = \sum_{i=1}^N H_{ji}(w) X_i(w)$$

各質点の質実応答、自己相関函数は

$$\begin{aligned} R_{Yj}(t) &= \sum_{\ell=1}^N \sum_{m=1}^N \int_0^\infty h_{j\ell}(\eta) h_{jm}(\eta) R_{\ell m}^{av}(\eta-t) d\eta \quad \{ \\ R_{\ell m}^{av}(t) &= E\{M_\ell M_m f(t) f(t+t)\} \end{aligned} \quad (6)$$

(1)式を Fourier 变换して 質実応答、power spectrum は

$$\left. \begin{aligned} S_{Yj}(w) &= \sum_{\ell=1}^N \sum_{m=1}^N H_{j\ell}^*(w) H_{jm}^*(w) S_{\ell m}^{av}(w) \\ S_{jj}(w) &= \sum_{\ell=1}^N \sum_{m=1}^N H_{j\ell}^*(w) H_{jm}^*(w) S_{\ell m}^{av}(w) \\ S_{YjYj}(w) &= \sum_{\ell=1}^N \sum_{m=1}^N H_{j\ell}^*(w) H_{jm}^*(w) S_{\ell m}^{av}(w) \end{aligned} \right\} \quad (7)$$

式(7-a), (7-b), (7-c) が得られる。  $S_{\ell m}^{av}$ ,  $S_{\ell m}^{av}$ ,  $S_{\ell m}^{av}$  は入力波自身の power spectra を表す。これらは以前の入力波の假定より算出されるが、式(7)は前面の關係上記載するとして割愛する。以上のことより、非定常 random 入力波に対する線形多自由度系構造物の各質実の間の power spectrum を直接計算する、確率論的構造物の動的挙動を整理していく事が可能となる。すなわち、これらが power spectrum を Fourier 逆変換して  $t=0$  における構造物破壊に対する安全性と次の 2 式で検討できる。

$$\begin{aligned} R_{Yj}(0) &= \sigma^2(Y_j) = \sigma_1^2, \quad R_{Yj}(0) = \sigma^2(Y_j) = \sigma_2^2, \quad R_{YjYj}(0) = \sigma^2(Y_j Y_j) = \sigma_{12}^2 \\ \text{からかく、構造物破壊に対する安全性と次2式で検討できる。} \end{aligned} \quad (8)$$

$$\begin{aligned} P_u(y, \alpha) &= 2 \int_0^\infty h(\tau) d\tau \\ h(\tau) &= \frac{\alpha_2}{2\pi\alpha_1} \left[ (1-\rho^2)^{\frac{1}{2}} \exp\left(-\frac{1}{2(1-\rho^2)} \left(\frac{\lambda}{\alpha_1}\right)^2\right) + \sqrt{\frac{\pi}{2}} \rho \frac{\lambda}{\alpha_1} \exp\left(-\frac{1}{2} \left(\frac{\lambda}{\alpha_1}\right)^2\right) \right] \\ P_e(y, \alpha) &= 2 \left[ 1 - \Phi\left(\frac{\lambda}{\alpha_1}\right) \right] \quad (9) \\ \Phi(u) &= \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^u \exp(-u^2) du \end{aligned}$$

$\lambda = \alpha_{12}/\alpha_1 \alpha_2$  で、 $\rho > 0$  の  $y = 1$ ,  $\rho \leq 0$  の  $y = 0$  とする。

(8), (9)式に掛け  $P_u$ ,  $P_e$  は、構造物に対する構造物の安全性に対する上限値及下限値を示すものである。

参考文献；

E;Heer; Coupled Systems Subjected to Determinate and Random Input, Int. J. Solids Structures, 1967, Vol. 3

Bishop; Mechanical Vibration

M.Shinozuka; Response of a Multi-Story Building to Random Excitation